

第38期  
事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日



**Daiohs**<sup>®</sup>  
株式会社 **ダイオース**

## トピックス

おかげさまで株式会社ダイオーズは、  
2005年12月14日に東証2部に上場いたしました。



## 株主・投資者の皆様へ



代表取締役社長

大久保真一

株主・投資者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
株式会社ダイオーズの第38期（2005年4月1日から2006年3月31日まで）の営業概況を取りまとめましたので、ご報告申し上げます。  
株主・投資者の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ダイオーズグループ

### 事業系統図（2006年3月31日現在）

当社グループの事業に係る位置付けは次の通りであります。



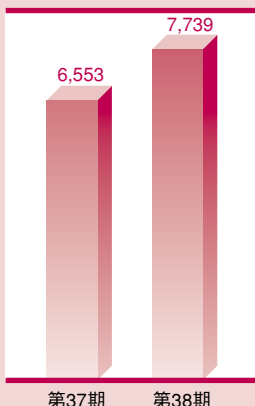
## 連結財務諸表

### 要約連結貸借対照表

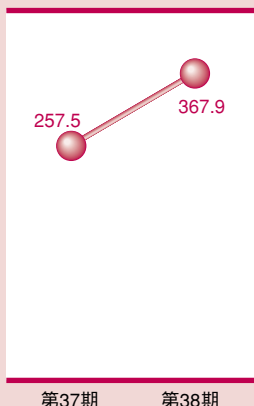
(単位：千円)

	当期 2006年3月31日	前期 2005年3月31日	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	4,307,673	3,500,008	807,664
現金及び預金	2,462,397	1,739,021	723,376
売掛金	1,179,678	1,056,362	123,315
その他	665,596	704,624	△ 39,027
固定資産	3,431,861	3,052,997	378,863
(有形固定資産)	(1,772,419)	(1,641,396)	(131,023)
建物及び構築物	271,758	296,642	△ 24,883
土地	555,592	552,794	2,797
その他	945,068	791,959	153,109
(無形固定資産)	(726,202)	(525,786)	(200,416)
営業権	515,781	435,841	79,939
その他	210,421	89,944	120,476
(投資その他の資産)	(933,238)	(885,814)	(47,423)
投資有価証券	209,395	180,769	28,626
レンタル資産	595,110	404,780	190,329
その他	128,733	300,265	△ 171,532
資産合計	7,739,534	6,553,005	1,186,528

■総資産(百万円)



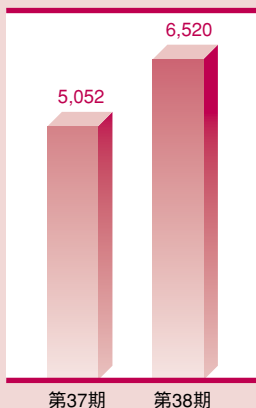
●流動比率(%)



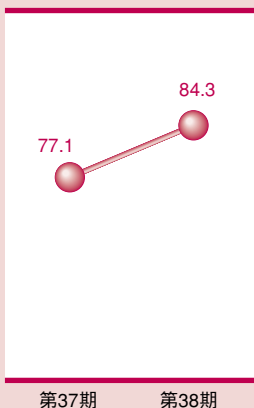
(単位：千円)

	当期 2006年3月31日	前期 2005年3月31日	増減額
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,170,864	1,359,119	△ 188,255
買掛金	362,188	329,205	32,983
未払法人税等	113,192	94,876	18,315
その他	695,483	935,037	△ 239,554
固定負債	47,905	141,669	△ 93,764
負債合計	1,218,769	1,500,789	△ 282,019
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	—	—	
<b>資本の部</b>			
資本金	1,047,011	746,034	300,977
資本剰余金	1,115,364	815,022	300,342
利益剰余金	4,230,726	3,532,938	697,788
その他有価証券評価差額金	18,658	9,716	8,942
為替換算調整勘定	116,864	△ 43,713	160,578
自己株式	△ 7,861	△ 7,781	△ 80
資本合計	6,520,764	5,052,215	1,468,548
負債、少数株主持分及び資本合計	7,739,534	6,553,005	1,186,528

■ 連結株主資本(百万円)



● 連結株主資本比率(%)

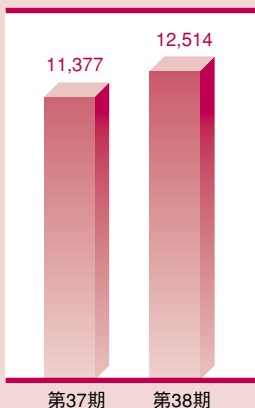


## 要約連結損益計算書

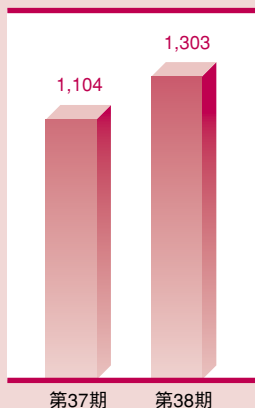
(単位：千円)

	当期 (2005年4月1日 2006年3月31日)	前期 (2004年4月1日 2005年3月31日)	増減額
売上高	12,514,211	11,377,425	1,136,786
売上原価	4,964,259	4,474,277	489,982
売上総利益	7,549,952	6,903,147	646,804
販売費及び一般管理費	6,364,315	5,858,231	506,084
営業利益	1,185,636	1,044,916	140,719
営業外収益	136,172	64,237	71,934
営業外費用	18,130	4,948	13,181
経常利益	1,303,679	1,104,205	199,473
特別利益	2,237	59,246	△ 57,008
特別損失	23,617	56,420	△ 32,803
税金等調整前当期純利益	1,282,299	1,107,031	175,268
法人税、住民税及び事業税	309,590	241,747	67,842
法人税等調整額	152,501	△72,163	224,664
当期純利益	820,207	937,446	△117,238

■ 連結売上高(百万円)



■ 連結経常利益(百万円)



## 連結剰余金計算書

(単位：千円)

	当期 (2005年4月1日) (2006年3月31日)	前期 (2004年4月1日) (2005年3月31日)
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	815,022	812,250
資本剰余金期末残高	1,115,364	815,022
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	3,532,938	2,687,173
利益剰余金増加高	820,207	937,446
利益剰余金減少高	122,419	91,682
利益剰余金期末残高	4,230,726	3,532,938

## 要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当期 (2005年4月1日) (2006年3月31日)	前期 (2004年4月1日) (2005年3月31日)	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	1,649,234	1,639,561	9,672
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,103,314	△ 538,415	△ 564,899
財務活動による キャッシュ・フロー	100,248	△ 551,162	651,410
現金及び現金同等物に 係る換算差額	76,721	10,260	66,460
現金及び現金同等物の 増減額	722,890	560,245	162,644
現金及び現金同等物の 期首残高	1,740,095	1,179,849	560,245
現金及び現金同等物の 期末残高	2,462,985	1,740,095	722,890

## 事業の内容

### 国内部門

#### ■ オフィス コーヒーサービス

全国的フランチャイズチェーン（ダイオーズOCSチェーン）の本部として、フランチャイズ加盟店及び全国の直営店で、オフィスコーヒーサービスを展開しております。



#### ■ ウォーターサービス

ワンタッチで冷水と温水を使い分けできるウォーターサーバーを貸与し、「ダイオーズピュアウォーター」等をオフィスや一般のご家庭に定期的にお届けするサービスです。



■ECOトナー  
カートリッジサービス

使用済みのトナーカートリッジを回収し、再生してお届けするエコロジーなサービスです。



■クリーンケア  
サービス

清潔で快適な職場環境を提供するマット、モップ、空気清浄機、浄水器等のレンタル及び販売を行うサービスです。



■ダイオーズ  
カバーオール

清掃員がすべて独立事業主であるため、安心してお任せいただける信頼の日常清掃サービスです。



米国部門





日本証券アナリスト協会ホームページにダイオーズの紹介記事が掲載されました。

企業

## 4653 ダイオーズ

大久保 真 一 (オオクボ シンイチ)  
株式会社ダイオーズ社長



全米制覇に向けて、  
ロッキー山脈東側地域への進出を開始

### ◆過去最高の売上・利益を達成

2006年3月期の売上高は、過去最高となる125億14百万円（前期比110%）を達成することができた。期首予想の115億21百万円を大幅に上回り、3月23日に修正した予想値（124億円）も若干上回る結果となっている。当社では、予算をつくる際に不確定な要素は織り込まない方針としており、特にM&Aは一切、予算に入れていない。当期はM&Aが順調に進んだため、期首予想との差が大きくなっている。

国内部門の売上高は66億15百万円（同104%）となっている。過去5年間、国内部門の売上高は減少傾向となっていた。ピュアウォーター事業は順調に伸びたものの、オフィスコーヒーマシンサービス事業およびクリーンケア事業が成熟期に入り、他社との差別化が難しくなったことが要因である。当期は、オフィスコーヒーマシンサービス事業において、1カップ抽出型の本格的なエスプレッソマシンを開発し、市場に受け入れられた。ピュアウォーター事業も引き続き好調となったため、前期を上回る売上高を達成することができた。

米国部門の売上高については、過去最高の58億99百万円（同117.6%）を達成した。ドルベースでは111.4%の伸びとなり、一部ベンディング事業の売却という3%程度のマイナス要因があったものの、それを上回る成長となっている。

営業利益は11億85百万円（同113.5%）、経常利益は13億3百万円（同118.1%）となり、共に過去最高を達成した。経常利益については、期初予想の9億15百万円を大幅に上回る結果となっている。当期純利益については、期初予想の4億73百万円および修正予想値の7億40百万円を上回る8億20百万円（同87.5%）となった。1株当たり当期純利益は130円32銭、現在のPERは11倍となっている。

2007年3月期の売上高は134億40百万円（前期比107.4%）を予想しており、うち、国内部門が70億32百万円（同106.3%）となる見込みである。米国部門の売上高は64億7百万円（同108.6%）を見込んでおり、ドルベースでは106%（M&Aを含まず）の伸び率を予想している。営業利益は13億16百万円（前

期比111%)、経常利益は13億49百万円(同103.5%)、当期純利益は8億33百万円(同101.6%)を見込んでいる。なお、売上高の伸び率については、M&Aを含めると10%は可能であると考えており、当期に引き続き、売上高成長率10%、売上高利益率10%を達成したいと考えている。1株当たり当期純利益は124円35銭、PERは11.6倍を予想している。

### ◆国内部門の組織改革を実施

当期の国内部門のトピックスとしては、4月と10月に組織改革を実施している。オフィスコーヒーサービス事業について、これまでは直営管理とフランチャイズ管理を別組織で行ってきたが、当期からは、直営とフランチャイズをひとつにまとめ、地区ごとに管理する体制を構築した。また、新規事業研究開発の専門部署として、事業推進室を新設している。

当期の成長の原動力となったのは、DEM-1(ダイオーズ・エスプレッソマシン)である。競合他社との差別化が可能になると同時に、1杯当たりの粗利益向上にもつながり、業績に貢献した。ピュアウォーター事業については、全国主要拠点に配送拠点を設置し、各支店から専門の担当者がルートサービスを行う新体制を開始した。今後は、国内事業の成長牽引力であるウォーターの事業領域拡大と、販売ネットワークの強化・拡大を図っていく。

コーヒーのフランチャイズチェーンについては、従来、オフィスコーヒーサービスの「OCSチェーン」となっていたが、今期からは、オフィスコモディティサービスの「OCSチェーン」として、コーヒーだけではなく、水、ECOトナーを総合的に取り扱う全国規模のフランチャイズ加盟店組織を展開する。全社的な統合システムについては、4月から本格稼働を開始した。これまでは事業部単位で動いていたが、今期からはデータベース等が一本化するため、顧客に対する新たな提案等に生かしていきたい。

### ◆収益と成長のバランス経営

米国部門のトピックスとしては、2リージョン制から4リージョン制に再分割し、細かい拠点管理ができる体制に変更した。また、アリゾナ州ツーソンに米国20番目となる拠点を開設している。経営については、国内同様、収益と成長のバランス経営を行っている。既に圧倒的なシェアを持っているカリフォルニア州内については、成長よりも収益を重視し、新たな市場となるカリフォルニア州以外(ポートランド、シアトル、リノ、ラスベガス、フェニックス、ツーソン)については、成長市場として積極的に資金を投入していく。

米国のコーヒー業界では、グルメ・コーヒーのトレンドが引

き続き進行しており、品質も価格も高い「シングルカップ・コーヒー」（1杯取りコーヒー機材）のニーズが高まってきた。「シングルカップ・コーヒー」は、従来の機材よりもリース料が高く、1杯当たりのコーヒー使用量も多い。粗利益額が上昇するため、このサービスの提供は、業績に好影響を与えている。

当社が米国に進出してから18年が経過したが、最初の13年間はカリフォルニア州のみで展開していた。5年前からロッキー山脈の西側に市場を広げており、今期からは全米制覇に向けて、東側地域への本格的進出を開始する。米国市場は、ロッキー山脈の東側に全体の四分の三が集中している。東側への進出により、競争も激化するが、M&Aの可能性も高まるため、オフィスコーヒーサービス事業で全米ナンバーワンを目指していく。

### ◆質疑応答◆

**今期の営業利益について、米国部門の予想を教えてください。また、為替の影響については、どのように考えているのか。**

国内同様、利益率10%を目指している。為替については、3月末の為替レートを前提に予算をつくっており、円高は売上高のマイナス要因となる。利益率については、売上高と比較して、為替の変動による影響は少ない。

**米国の西海岸における業界内での地位を教えてください。**

当社はカリフォルニアでは圧倒的なナンバーワン、西海岸全体でもナンバーワンとなっている。

**米国における強みは何か。**

営業力の強さで差別化を図っている。完璧な守りと積極的な攻めで、圧倒的な市場シェアを獲得した。

**株主資本比率が84.3%まで上昇したため、今後はM&A等に有効活用していくということだが、年間最大でどの程度のM&Aを考えているのか。**

米国では、ロッキー山脈の東側に進出するため、大規模なM&Aを実施したいと考えている。国内についても積極的にM&Aに取り組んでいく。

(平成18年5月12日・東京)

本著作物の著作権は、社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本稿は社団法人日本証券アナリスト協会のホームページに掲載された会社説明会要旨を同協会の許可を得て転載するものです。

## ホームページを リニューアルしました



ホームページアドレス  
<http://www.daiohs.com>

当社ホームページでは、決算公告などの財務情報をはじめ、事業展開、製品情報など、最新の情報がご覧いただけます。どうぞご利用ください。

## 株主ご優待のご案内

### 贈呈基準

毎年 9 月 30 日現在の株主様

### 優待内容

- 300株～1,000株未満  
100杯分のレギュラーコーヒー
- 1,000株以上  
200杯分のレギュラーコーヒー



## 株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年 6 月
配当株主確定日	利益配当 3月31日 中間配当を行う場合は 9月30日
基準日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告した日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ	〒171-8508
郵便物送付先	東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.daiohs.com">http://www.daiohs.com</a> ) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。